

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104209
法人名	株) ケアジャパン
事業所名	グループホーム ハッピー余戸
所在地	愛媛県松山市余戸東2丁目7-13
自己評価作成日	平成28年7月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の今ある力を生かし、出来る限り自ら行うことを支援しています。また、それぞれの方の要望や希望を取り入れたいことを応援し、地域の方々やボランティアの協力を得て地域の行事などに参加し、いろいろな人たちと触れ合うことでこの町で暮らしているという実感を感じていただける様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

年1回の地区の溝そうじには、毎年職員が参加している。秋祭りの地区当番の折には、職員が出て早朝からおにぎり作りに協力した。地域の方がハンドマッサージ等のボランティアに来てくれている。自宅で介護している近所の高齢者の方から、排泄用品の選び方等について相談を受けることがある。
 退居となった利用者や事業所で看取りを支援した利用者については、約1年後に管理者から電話して様子をうかがうようにしており、時には自宅にお線香を供えにうかがうようなこともある。
 テーブルを手でたたく利用者がおり、他者への配慮も考えて職員の提案から本人にうちわを持ってもらうようにしていた。テーブルをたたくことが減り、うちわで他者を扇いであげるような場面も見られるようになった。
 利用者全員について、ひと月ごとに支援要約を記入して一枚の用紙で一年間の支援がわかるようにしている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ハッピー余戸

(ユニット名) よし子ハウス

記入者(管理者)

氏名

伊藤 美智子

評価完了日

平成28年 7月 31日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 事業所としての理念に基づき、地域の行事等に積極的に参加するようにしている。(溝掃除、盆踊り大会、運動会、秋祭り等) スタッフ全員が地域の人たちと馴染の関係を作りたいと希望し、積極的に行事参加やコミュニケーションをとれる体制をとっている。ホームの理念は入居者様の声を反映させつつ、少しずつ変化があるものと捉えています。	
			(外部評価) 法人理念「優良な介護サービスを提供することで地域貢献する」のもと、ユニットは「ほのぼのと安心できる心地よい我が家・・・主役はあなたです」ユニットは「あなたのやってみよう。行ってみたいを大切にします」と理念をつくり、居間に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内行事への参加と小学生との交流、ボランティアの訪問など受け入れ、グループホームでの運営推進会議等の行事への声掛けなど交流を深めています。	
			(外部評価) 年1回の地区の溝そうじには、毎年職員が参加している。秋祭りの地区当番の折には、職員が出て早朝からおにぎり作りに協力した。地域の方がハンドマッサージ等のボランティアに来てくれている。自宅で介護している近所の高齢者の方から、排泄用品の選び方等について相談を受けることがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2か月に1度の運営推進会議に地域の方々に参加していただき、活動の紹介・説明の話し合いの場を持ち、認知症の方への理解を深めていただくよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	2か月に1度、町内会長・老人会会長・民生委員・市役所・地域包括・家族様の参加をいただき、意見交換をしてサービスの向上に努めている。	
			(外部評価)		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	町内会の方々からの意見を会長さんより伝えていただいたり、市の主催する連絡会、運営推進会議時に説明させていただいたり、意見をいただいたりしています。	
			(外部評価)		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	研修や会議などで(指定基準における禁止の対象となる具体的な行為)について話し合い理解している。また、立位、歩行が不安定な方への対応として、転落・転倒防止の為センサーマットを使用している。その際、主治医からの指示をいただき家族様に説明し、同意書を作成しています。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 接遇や身体拘束などミーティング等で話し合いの場を設け、全員で取り組んでいる。気が付いたことは早めに対処するように心がけている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、成年後見制度を活用している入居者様はいませんが、過去の経験と研修等の学ぶ機会を活用していつでも支援していける体制をとっていたいと考えています。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に説明させていただき、理解と納得をしたうえで契約書にサインをしていただくようにしています。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関口に意見箱を設置していますが、家族様との関係を大切にして小さな不安も無い様に話し合いの場を設けたり、電話での報告、お便りなどを利用し、意見を十分聞き説明したりしながら運営に反映している。 (外部評価) 運営推進会議に参加する家族同士が顔見知りになっており、会議後には、おしゃべり等して情報交換を行う場面が見られるようだ。新人職員については、家族の来訪時に管理者から紹介をしている。2ヶ月ごとに「よしこハウス便り」に写真を載せて日常の暮らしぶりや行事の報告を行っている。ぶどう狩り等の行事には、一緒に楽しめるように電話したり来訪時に誘っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>日々仕事をしている上で出てきた意見や発想は、ミーティング等で伝え話し合い検討する。スタッフ全員に伝わるように申し送りノートに書いたり、ミーティングノートに記入し既読サインをして全員で反映させるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員の休み希望等を反映して勤務表を作っている。居間の飾り付けは、職員のアイデアを反映させて行っている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>年度が変わるたびに、年間目標を決め取り組んでいます。スキルアップについては資格取得の祝い金など創設している。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修案内の公表して、希望があれば優遇するようにしているが研修場所が不便なので交通手段がなかったりするので足が遠のいてしまっている。日々の仕事の中で管理者、リーダー、経験豊富なスタッフが手本になれるように自覚を持って活動するようにしている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>研修を通じて親睦を深めたり、連絡会で一緒に勉強したりしながら交流し、情報交換を行うようにしている。参考にしたり活動の取り組みなどアドバイスをし合えるような仲間を増やしていけるように努力している。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>新しい環境・生活に慣れていただくために、常に声掛けし様子を見ながら見守りをする。常に目を離さずお声掛けし、スキンシップをとりながら不安や要望を取りこぼさない様に聞き、安心して生活できるように心がけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前、入居時に困っていることや不安や要望を聞かせていただき、しっかり説明させていただいたうえで納得していただける様に努力し、その後も相談させていただきやすい関係を保っていただける様にしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人様と家族様の要望を見極めそれぞれの希望に添えるようなプランを立て、取り入れ実践するようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で出来ることを協力していただきながら、入居者様同士、そしてスタッフも含めて家族のようないい関係を築いていけるようにしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月一回の写真付きお手紙を送らせていただき、身体面・生活面の報告をさせていただき、その他電話連絡もさせていただいている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の愛着のあるものや写真などを身の回りに置くことにより、安心感を持っていただく。近所に住んでいた方には以前言ったことのある公園などに散歩の出掛けたりするなどしていただく。親しくされていたご近所の方なども関係が途切れないようお付き合いしていただき心の安定を図っていただく。	
			(外部評価) 退居となった利用者や事業所で看取りを支援した利用者については、約1年後に管理者から電話して様子をうかがうようにしており、時には自宅にお線香を供えにうかがうようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 興味のあることや慣れ親しんだ得意なことなど個人的な趣味などを把握したうえで入居者が共通している部分やスタッフが介入して関係をよりよく出来るようなことがあれば支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 機会を見つけて電話で連絡を取っている。その後発生した不安や話したかったことなども気兼ねなくお話しいただいている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の生活パターンを把握し、希望や意向に反しない様に自然にお手伝いをしたいと思っています。(本人の意向をくみ取り安全かつ快適に近づける様にスタッフ間で話し合っています) (外部評価)	本人主体の支援を実践できるように、利用者の生活歴や現況、これからの暮らし方への希望について情報を集め、介護計画につなげていくような仕組みを作ってほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前、入居時に御本人や家族様からお話を聞きまた、その後生活を始めてからも会話の中から聞き出し出来るだけ今までの生活と変わらぬように配慮しています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の方の心理・身体の状態に合わせ、距離感を考えて寄り添うように心がけ何か心配なことがあった時には、すぐに声をかけていただけるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			月1回から2回のミーティングの時間を作り課題の検討と本人様や家族様の要望に応えられるように介護計画を立てるようにしている。	
			(外部評価)	
			月1回、担当職員がモニタリングの書式を用いて、達成できているか等を確認している。3ヶ月ごとにカンファレンスで評価を行い、見直しにつなげている。さらに、本人の支え手として、家族等や地域の人たちとの協力体制等を盛り込んだ介護計画作りにも工夫してほしい。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			会話(発言)や行動をそのまま記録に残しリアルに想像できるように書き込み、スタッフ全員が共有しそれを実践や介護計画の見直しに生かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			入居者様に必要であれば、マッサージ等利用して頂いたり、気分転換の為にアロマのボランティアに入っていたりします。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の行事に参加し月に一度婦人会主催のコロッケ・お寿司販売を利用し家庭の味を味わっていただいている。盆踊りの時はおでん販売も利用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月2回の往診と病状により往診に来ていただいています。また、家族の要望があったり詳しく状態を把握するために主治医からの要請で大きな病院へ検査の為に往診していただいております。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>週1回、看護師資格を有する職員が勤務しており、利用者の健康管理を行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ホームの看護師が出勤時に入居者様の症状を伝え記録、状態を診ていただき、処置をしていただいている。平日看護師不在時は1階のデイサービスの看護師に相談したり、処置していただいている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入院時は病院関係者と情報交換をしている。退院時はご家族、病院側と相談し情報を得ている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時は病院関係者と情報交換をしている。退院時はご家族、病院側と相談し情報を得ている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入居契約時に重度化した時のお話も加えさせていただき、重度化した場合早期にご家族、主治医、職員間での話し合いをもてるようにしている。 「重度化の指針」「看取りの指針」の説明</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>内部研修で看取り支援について研修を行っている。入居時には、家族に説明を行い、これまでに支援したケースを話すこともある。状態変化時には、医師や家族、職員で支援の方針について話し合っている。終末期のあり方について本人の希望を聞き取っている場合は、家族に伝えている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変や事故に関しては、ミーティング等で話し合い周知徹底している。尚且つ管理者、主治医には平素より連絡を密にして抜かりない様にしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防訓練ないし、避難訓練を行うようにしている。ホーム内には3台の消火器を設置している。消防署との直通電話も設置している。非常口の確保を心がけている。 (外部評価) 日中の火災を想定して避難訓練を行っている。6月の訓練時には、2階ユニットの利用者で歩行可能な方は階段で避難する訓練を行ったが、車いすの利用者等の避難については課題になっている。	さらに、夜間の災害を想定した訓練の実施や備蓄の確保、地域との協力体制づくり等について具体的に取り組みをすすめてほしい。運営推進会議時にも議題に挙げて話し合いながらすすめてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇に気を付けるとともに、排泄時の声掛けにも十分に配慮するように気を付けている。 (外部評価) 誕生日には、ケーキを用意して、皆でお祝いしている。職員が言葉遣いを意識できるように、職員トイレのドアに事例を掲示している。職員の言葉遣いで気になるような場合は、管理者がその場で注意をしているが、事業所自身で「利用者への言葉かけや呼び方等が慣れ合いになってしまっているのではないかと」感じるところもあるようだ。テーブルを手でたたく利用者があり、他者への配慮も考えて職員の提案から本人にうちわを持ってもらうようにしていた。テーブルをたたくことが減り、うちわで他者を扇いであげるような場面も見られるようだ。	利用者から希望が出ることは少ないようであるが、さらに、利用者の活動意欲や生活への自信につながるような職員のかかわり方についても、積極的に取り組んでほしい。外食した際にはメニュー表から好きなものを選ぶ様子が見られるようだが、日常生活の中でも意向を表せるように場面作りに工夫してほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人様の希望や要望は出来る限り尊重している。どうしても無理なことは何度も話しかけ、納得がいくまで説明させていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者様のペースを大切にして日々快適に過ごしていただきたいと思います。一人一人の声を大切にして出来るだけ多くの要望に応えています。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服は出来るだけ選んでいただき、季節に合わないときや体調不良時にはお声かけさせていただいています。理容は定期的に行っています。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたいものをお聞きしたり、昔からのしきたりや決まった時に食する献立をお出しするようにしています。準備や下膳も出来るだけ自立で行えるよう支援しています。 (外部評価) 調査訪問時には、ゆっくり起床の方が時間をずらして朝食を食べていた。食事を残す利用者について、「お茶碗の中のもの残さない」ことに職員が気付き、職員がとなりで食事しながらサポートして、残さず食べられるように支援している。車いすの利用者も膝に食器を乗せて下膳していた。果物が好きな利用者も多く、季節の果物を毎食積極的に付けている。生協のカatalogをみながら食べたいもの等を聞いたりしているが、食事について希望を言う利用者は少ない。	さらに、利用者が食事を楽しむことのできる支援という観点から、職員のかかわり方に工夫できることはないか話し合ってみてほしい。又、食事と体重、栄養や摂取カロリー等、食事について話し合うような機会を作ってはどうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) チェック表にて管理させていただき、お出しする飲み物は出来るだけ毎日違うものをお出しするよう心がけています。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯使用の方は出していただき、毎日ポリドントにつけ衛生に気を付けています。口腔内除菌に効果のある緑茶を飲んでいただいています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表を正確に記録し、把握しながらその日の体調に合わせて声掛け誘導します。夜間ぐっすり眠られておむつ対応の方も日中も訴えがあるならば布の下着で対応しています。	
			(外部評価)	
			排泄チェック表で把握してトイレで排泄できるように支援している。介助が必要な方についても、トイレ使用时には職員はその場を離れて一人で用を足せるように支援している。ユニットでは車いすの利用者が使用しやすいように扉を開放していた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			朝食にはバナナとヨーグルトを加えて、規則的な排便を働きかけている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			タイミングを図り、声掛けにも注意しつつ本人の希望に沿っているが、できれば週に2～3回は入っていただける様に支援している。	
			(外部評価)	
			ユニットは、二人介助で全員湯船で温まれるように支援している。一番風呂が好きな方、牛乳石鹸で全身洗う方等、それぞれの好みに合わせて支援している。ユニットには、一般家庭のような浴槽とシャワーいすがある。車いすの利用者の中には、シャワー浴のみの方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			出来るだけ日中はホールで過ごしていただき、活動量を多くして夜間はぐっすり眠っていただけるように支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬はホームのほうで管理させていただき、目的と副作用の確認を主治医と処方箋から確認している。薬が変わった時はいつも以上に確認と説明を熟読している。セット方法も3段階で確認するようにして確実に服用していただいています。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で新聞を読んだり、居室の掃除、洗濯ものを干したり畳んだり、片付け、おやつ作りなど家事活動や塗り絵など無理のない程度に体を動かし気分転換しています。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日はお散歩がてら公園・ペットショップなどに行かれる。皆でイチゴ狩り、ブドウ狩りにもいかれます。今年度は松山劇場にも芝居を見に行きました。 (外部評価) 帽子をかぶり散歩に出られるように支援している。近所の公園に行って滑り台等で遊んだり、電車が通るのを見たりしている。入居後、近所のスーパーマーケットによく買い物に行くため、店員の方と顔見知りになっている。又、町内の喫茶店やレストラン等よく利用しており、利用者が過ごしやすいように配慮してくれている。ユニットは、玄関先で野菜を育てたり、洗濯物を干している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人一人の力や希望に応じて所持していただいているが、いくら持っているか、どこに置いているかは把握させていただいている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) お手紙でのお付き合いがある方はずっと続くよう支援させていただいています。携帯電話を使用されている方もおいですので、ほかの人に迷惑にならないようご利用できるよう支援させていただいています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>四季折々のディスプレイにし季節感を感じられるように工夫しています。ホールだけでなく個人の居室にも工夫を凝らしています。準備段階で一緒に楽しんでいます。懐かしい曲を流したり、鳥の声や動物の写真など見えるところに飾り、心地よい空間を作るように支援しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニットは玄関先にパラソルを立て、ベンチを置いてちょっと出て過ごせるスペースを作っている。テレビの周りにソファを配置して雑誌を並べ、いつでも手に取れるようにしていた。鈴虫の声も聞こえていた。ユニットは、調査前日に夏祭りを行ったため、ちょうちん等の飾り付けがなされていた。</p>	<p>テレビを見ることを楽しみにしているような利用者もあるが、画像が見にくいように感じる。又、ソファの位置等、毎日過ごす利用者の視点から空間づくりに取り組んでほしい。</p>
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>仲のよい話しやすいお友達ができて、談話等を楽しまれています。コミュニケーションをそれぞれに工夫されています。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ずっと慣れ親しんだものはすぐ近くに置いていただき、居心地の良いスペースを提供している。安心感と居心地の良さで穏やかに過ごしていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>転倒の危険のある方には、ベッド足元に敷布団を敷き、センサーマットを設置している。家族からのプレゼントを飾っている方や亡きご主人の遺影に手を合わす方がいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>動かれる場所には障害物を置かず、毎日変わりにく安全な通路を確保しています。また、居室やトイレなどは場所がわかりやすい様に表示しています。</p>	